



2023年6月16日

鈴与商事ニュースリリース

鈴 与 商 事 株 式 会 社  
取締役経営企画部長 金原 勝

## 「令和5年度 再生可能エネルギーアグリゲーション実証事業」への参画

鈴与商事株式会社（本社：静岡市、代表取締役社長 伊藤正彦、以下 鈴与商事）は、この度、経済産業省が実施する「令和5年度 再生可能エネルギーアグリゲーション実証事業」（執行団体：（幹事社）一般社団法人環境共創イニシアチブ）に、実証協力者として参画することをお知らせ致します。

本実証事業は、DER（分散型エネルギーリソース）※1や再エネの有効活用の環境を整備し、アグリゲーション※2 関連ビジネスの発展を通じた、カーボンニュートラルの達成に貢献することを目的に株式会社エナリス（本社：東京都千代田区、代表取締役社長 都築実宏）をリーダーとする 11 社でコンソーシアムを組み、再エネアグリゲーション※2 の商用化に向けて制御技術や発電量・市場価格の予測技術等の実証を行い、システム構築を目指します。

具体的には、実需給に近いほど予測精度が高いというこれまでの実証で得た結論を基に、リアルタイム予測値（実需給が発生する2時間前に予測した値）をベースに、時間前市場取引や蓄電池充放電を活用して予測値と実績値の誤差を埋めた場合のインバランス※3 回避効果と収益性の検証を行います。

弊社は、本実証事業に実証協力者として参画し、弊社が運営する太陽光発電所の発電量の実績データ等を提供することで、需給一体型のビジネスモデル確立に向けた検証に貢献して参ります。また、発電量の変動性が高い再エネ電源導入の拡大には、電力の安定供給のために適切な調整力が求められることから、本実証事業を通じて、発電量予測精度の向上、コストバランス、インバランスを抑制するためのノウハウの蓄積を目指します。

鈴与商事は、再エネアグリゲーションの取り組みを通じて知見を広げ、再エネの安定的な活用とカーボンニュートラルの達成に向けたサービスの構築を進めてまいります。また、先般表明した「カーボンニュートラル宣言」に基づき、自らもカーボンニュートラルに取り組みながら見識を深め、サービスを通して地域に貢献してまいります。

以上

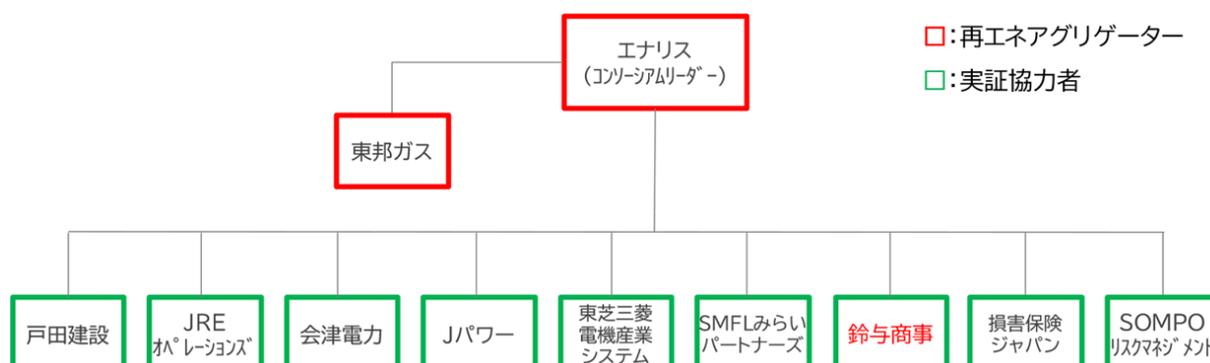
※1 DER（分散型エネルギーリソース）：Distributed Energy Resources の略。需要家の受電点以下に接続されているエネルギーリソース（発電設備、蓄電設備、需要設備）に加えて、系統に直接接続される発電設備、蓄電設備を総称するもの。

※2 アグリゲーション：複数電源を束ねる技術により、計画上の発電量と実際の発電量の過不足を解消する仕組み。再エネアグリゲーションは、再エネ発電所を束ねて管理することによって、計画上の発電量と実際の発電量との過不足（インバランス※3）の解消を目指すとともに、発生した発電の過不足を効果的に市場取引することで、新しい収益源になる可能性もある。

※3 インバランス：発電量実績値の計画値から外れた分、ペナルティ（インバランス料金）を払う必要がある。

《本件に関する問い合わせ先》  
鈴 与 商 事 株 式 会 社  
経 営 企 画 部  
0 5 4 - 2 7 3 - 7 8 3 2  
[s-info@ss.suzuyoshoji.co.jp](mailto:s-info@ss.suzuyoshoji.co.jp)

## ■実施体制図(11社)



## ■本実証の概要

事業名	再エネ主力電源化に向けた DER 活用電力システム構築実証事業	
コンソーシアム リーダー	株式会社エナリス	
再エネアグリゲーター	株式会社エナリス、東邦ガス株式会社	
実証協力者	戸田建設株式会社、JRE オペレーションズ株式会社、会津電力株式会社、電源開発株式会社(J パワー)、東芝三菱電機産業システム株式会社、SMFL みらいパートナーズ株式会社、損害保険ジャパン株式会社、SOMPO リスクマネジメント株式会社、 <b>鈴与商事株式会社</b>	
実証地域	東北エリア、東京エリア、中部エリア、関西エリア、九州エリアを中心とした全エリア対象	
発電/制御設備	太陽光発電所(野立て、屋根置き)、風力発電所、産業用蓄電システム	
実証内容	【共通】インバランス回避実証:	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 発電量予測タイミング(通年での FIP 収益性・インバランス評価、RT 予測精度向上)</li> <li>■ 時間前市場取引によるインバランス回避(収益性の評価)</li> <li>■ 蓄電池充放電によるインバランス回避(収益性の評価)</li> </ul>
	【共通】市場取引での収益拡大に向けた検証:	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 蓄電池導入や BG 組成による経済的効果の検証</li> <li>■ 発電所併設蓄電池のレバニユースタック(収益源拡大)の検討</li> </ul>

	<p>【共通】再エネ発電量予測技術実証:</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ アンサンブル予測導入効果検証 (異なる気象予報会社の予測データを用いた場合の再エネ発電予測精度の検証)</li> <li>■ 予測精度向上検証(積雪の影響を考慮した予測技術の開発、洋上風力発電における予測技術の検証、トラブル停止等による異常値や出力抑制の検知手法の開発)</li> <li>■ 発電量予測精度と予測運用コストの費用帯効果の検証</li> </ul>
	<p>【独自】インバランリスク保険商品等検討:</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 再エネ発電予測誤差に起因するインバランリスクヘッジのための保険商品およびサービスの開発検討</li> </ul>